

事業所名

しながくどう宮崎（児童発達支援）

支援プログラム

作成日

R7年

3月

10日

法人（事業所）理念		私たちは利用者の利益を最優先に考え、子どもたちの未来の可能性を広げる支援と心の自立を大切にしたい関わりを提供します。多様で専門的な視点から支援を行うため、多職種が協働し、セラピストをはじめとする専門職が総合的に関わりながら、科学的根拠に基づいた療育に取り組みます。					
支援方針		子どもたちの困り感について、脳のネットワーク機能の障害に基づいた視点と5領域を網羅した視点で捉え、アセスメントを実施します。アセスメント結果を分析し困り感の理由を分析してきます。また、活動に子どもたちを無理に合わせるのではなく、子どもたち一人ひとりに適応した活動を提供するため、個別または小集団での活動を計画・実施します。					
営業時間		8時	0分から	17時	0分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	睡眠、食事、排泄などの基本的な生活習慣の定着を支援し、安定した生活リズムを整えます。遊びや子どもの活動達成感や自己肯定感を育みながら、無理なく生活スキルの向上を目指します。さらに、ひとりひとりの成長に応じて不安や悩みに寄り添いながら心の安定を支え、健やかな発達をサポートします。					
	運動・感覚	子どもの感覚特性に配慮し、安心して活動できる環境を整えます。また、感覚、知覚、認知の視点を取り入れ、感覚入力を正確に処理できるよう、感覚遊びや識別訓練などの課題を提供します。粗大運動では、前庭感覚や固有感覚を意識しながら、バランス感覚や姿勢保持を養う活動を行います。微細運動では、手指の巧緻性を高める活動を通じて、日常生活や学習に必要なスキルの向上を目指します。（作業療法士、理学療法士、言語聴覚士の指導あり）					
	認知・行動	子どもたちの遊びや日常の中で自然に学びを得られるように、眼球の動きや視覚、音の聞き取り、記憶力など、学びの土台となる力を総合的に支援します。発達に合わせた課題を設定し、無理なく楽しみながら学びに取り組みめるよう支援することで、小さな成功体験を積み上げ、自信と自己肯定感を高めます。（アセスメントを基に個々に応じた支援課題を実施します）					
	言語コミュニケーション	子どもたちが言葉で自分の気持ちや考えを伝えられるよう、視覚的な絵カードや音声による指示を活用し、遊びの中で自然に指示を捉え行動に移す力を育みます。また、言葉でのコミュニケーションが難しい場合には、絵カードやICT機器を使った意思伝達のサポートを行い、環境や状況を理解しつつ自分の意思を正しく伝えられるよう支援します。子どもの発達段階に応じて言語聴覚士と連携し、支援します。					
	人間関係社会性	子どもたちが友達と楽しく遊びながら、みんなとの関わり方を学び、ごっこ遊びなどを通じて、子どものルールの理解や自己コントロールを支援します。また、絵本や療育活動、自由遊びの時間を通じて、相手の気持ちや立場に共感する力を育み、協力して活動したり、対話を楽しんだりする経験を大切にします。小さな成功体験を積み重ねながら、子どもたちが安心して他者と関わり、社会性を伸ばしていけるよう支援します。					
家族支援		家庭環境や子どもの特性を把握するため、定期的な面談や自宅訪問を通じて課題を共有し、家庭で実践しやすいホームプログラムを提案します。加えて、日々の取り組みを支える相談援助を行い、家庭全体で連携しやすいサポート体制を整えます。		移行支援		並行通園している園や就学先の学校の先生に対し、子どものアセスメント結果や個別支援計画書など支援内容に関する情報をモニタリングや担当者会議、面談を通じて共有します。	
地域支援・地域連携		・地域のイベントへ参加 ・各種関係機関(幼稚園、保育園、相談員、児童相談所)との連携を図る		職員の質の向上		・事業所内研修会 ・外部研修会への参加 ・随時スタッフの悩み相談のサポート体制 ・カンファレンス	
主な行事等		・外出訓練、料理活動、季節のイベントを取り入れた活動(夏祭り、クリスマス会、初詣など) ・保護者向け研修会 ・保護者参加型イベント					